

060-8789 札幌中央郵便局私書箱 66 号
☎011-751-8833 fax011-711-0696
<http://yusanrosapporo.web.fc2.com/>

郵政産業ユニオン さ っ ぽ ろ

発行
郵政産業ユニオン札幌支部
発行責任者 川守田英男

雇用賃上げ・増税・憲法・TPP メーデー北海道集会

賃金を上げる・安定した雇
用を・消費税増税反対・TP
P参加反対・憲法改悪反対、
第84回が1日、中島公園で開
催されました。
J A 会長からメッセージ
道労連黒沢議長は「安倍政
権の悪政に労働者・国民の大
同団結で立ち向かおう」とあ
いさつ。集会には J A 道中央
会飛田会長から、「TPP に
連帯してたたかおう」とのメ
ッセージが寄せられました。



**統一後初メーデー
内部留保を社会還元せよ
希望する全員を正社員に**
支部は組織統一後、「郵政
産業ユニオン札幌支部」とし
て、初めてのメーデーです。
支部組合員は時々小雨が降り
肌寒いなか、真新しい組合旗

をかかげ、
「内部留
保を社会
還元せよ」
希望する人
全員を正
社員に」
などのゼ
ッケンを
つけ元気
に行進し
ました。
集会には
3千名が
集結し、
郵産労働
ユニオンも
OBを含め
30人が
が参加しました。
川柳で図書券ゲット
集会以て募集した「メーデー川
柳」では支部組合員の次の句
が入選し、千円の図書券をゲ
ットしました。—今でしよう
／内部留保を／賃上げに—
デモ行進終了後の懇親会では、
果敢にたたかった初めての
ストライキの感激、支援に
駆けつけたOBへの感謝など
で、大いに話がはずみました。



いづれの御時にか、
女御、更衣あまたさ
ぶらひたまひける
なかに、いとやむご
となき際にはあら
ぬが、すぐれて時めきたまふ
ありけり▼源氏物語の冒頭で
ある。平安時代成立の長編小
説で、作者は紫式部。わが国
の誇る古典文学の傑作であり、
同時代を見渡して、これほど
の完成度をもった小説は世界
でも稀という▼「いつかは、
とても、なかなかかなわぬほ
どに、世あるうちにとて始む
るもむつかしきことかぎりな
し」で一向に読み進めない。
もつとも原文などとても無理、
「谷崎源氏」に取り組んでい
る。注解をたよりに十一帖花
散里まで来たが、五十四帖は
遙か彼方だ▼最大の難は主語
が省略されていること。読み
進み敬語を斟酌しないと、何
人のことなのかわからない▼
以前にも難透難解な文章に悩
まされた気がする。記憶をた
どると、健三郎と我支部の T
氏に行きついた。なるほど T
氏は文学者である、今さらな
がら「いと才かしこき博士に
てやあらむ」と認識した。



厚別局で退職強要 札幌地裁不当判決



ゆうパック1個誤配しただけで退職を強要された厚別局橘さんの「地位確認等請求」裁判で、札幌地裁は「請求棄却」の不当判決を下しました。

仕事ないと脅し

退職強要

橘さんは2011年7月30日、ゆうパックを誤配しましたが、お客様に陳謝し、代替商品を再送することで解決をみました。しかしその後、会社が再送商品を遅延したことで、お客様とトラブルになりました。8月11日、会社は橘

さんを呼び出し、橘さんの業務を他の従業員に回し、「担当させるべき業務がない」旨を告げました。橘さんはこれに畏怖し12日、「辞職願」を提出してしまいました。13日、労働組合から「仕事を取り上げ退職強要したものであり無効である」と退職撤回の申し出」をしました。しかし、会社が受理しないため、「労働審判」を札幌地裁に申し立てていたものです。

会社のやり方

許せない

橘さん側は、「実質的な解雇である」「退職願の提出は強要されたものである」「8月13日に退職撤回の意思表示をした」と主張しましたがいづれも退けられました。会社が再送商品を遅延したことはほっかむりし、仕事を取り上げ、退職を強要する会社のやり方は許せません。

職場を少しでも

良くしたかった

橘さんは「誤配などミスをするたびに始末書を書かされるなど、非正規社員はビクビクして仕事をしている。このよ

うな職場を少しでも良くしたかった。裁判には勝てなかったが、たたかってよかった」と語っています。



会社の瑕疵・欠陥

そろそろ

この裁判の過程では、
①採用時に明確な労働条件の説明がなされていない。労働条件説明書等の交付がなされていない
②社会保険の手続きがなされていない
③JPグループとの協約で、解雇等個別労働案件では団体交渉権がない
と多くの会社の瑕疵・欠陥があきらかになりました。

郵産労ユニオンに加入続々「退職届・始末書書かない」

一方厚別の職場ではこの間二桁の非正規社員が組合に加入するなど、たたかう労働組合の姿が話題をよびおきな反響がありました。また、「退職届は書かない」「始末書も書かない」と多くの社員間で申し合わせています。

弊紙タイトルを
変更いたしました。